

JIS

空気中の繊維状粒子測定方法—
第4部：固定発生源—
プラントからのアスベスト飛散
—繊維計数測定法

JIS K 3850-4 : 2000

(ISO 10397 : 1993)

(2005 確認)

平成 12 年 2 月 20 日 制定

日本工業標準調査会 審議

(日本規格協会 発行)

著作権法により無断での複製、転載等は禁止されております。

まえがき

この規格は、工業標準化法に基づいて、日本工業標準調査会の審議を経て、通商産業大臣が制定した日本工業規格である。

JIS K 3850-4には、次に示す附属書がある。

- 附属書A (参考) 理想的でない環境
- 附属書B (参考) 装置の保守
- 附属書C (参考) 作業現場での代表的なデータシート
- 附属書D (参考) 結果の代表的表現 (表し方)
- 附属書E (参考) 測定方法の正確さと精度
- 附属書F (参考) 警告—安全予防

JIS K 3850シリーズは、次に示す四つの部からなる。

- 第1部 位相差顕微鏡法及び走査電子顕微鏡法
- 第2部 直接変換—透過電子顕微鏡法
- 第3部 間接変換—透過電子顕微鏡法
- 第4部 固定発生源—プラントからのアスベスト飛散—繊維計数測定法

主 務 大 臣：通商産業大臣 制定：平成12. 2.20

官 報 公 示：平成12. 2.21

原案作成協力者：財団法人 建材試験センター

審 議 部 会：日本工業標準調査会 環境・リサイクル部会 (部会長 二瓶 好正)

この規格についての意見又は質問は、工業技術院標準部標準業務課 環境生活標準化推進室 [☎100-8921 東京都千代田区霞が関1丁目3-1 TEL 03-3501-1511(代表)] にご連絡ください。

なお、日本工業規格は、工業標準化法第15条の規定によって、少なくとも5年を経過する日までに日本工業標準調査会の審議に付され、速やかに、確認、改正又は廃止されます。

日本工業規格

JIS
K 3850-4 : 2000

空気中の繊維状粒子測定方法－第 4 部：固定発生源－ プラントからのアスベスト飛散－繊維計数測定法

正 誤 票

区分	位 置	誤	正
本体	英文タイトル	Measuring method for airborne fibrous particles － Part 4: Indirect-transfer transmission electron microscopy method	Measuring method for airborne fibrous particles － Part 4: Determination of asbestos plant emissions－ Method by fibre count measurement

平成 17 年 8 月 1 日作成

JIS K 3850-4 : 2000

空気中の繊維状粒子測定方法－第 4 部：固定発生源－
プラントからのアスベスト飛散－繊維計数測定法

訂 正 票

位 置	誤	正
裏表紙 英文タイト ル	Measuring method for airborne fibrous particles－ Part 4: Indirect-transfer transmission electron microscopy method	Measuring method for airborne fibrous particles－ Part 4: Determination of asbestos plant emissions －Method by fibre count measurement

訂正票とは、規格本体以外（解説ほか）に対する正誤を表します。

平成 17 年 8 月 1 日作成

空気中の繊維状粒子測定方法— K 3850-4 : 2000
第4部：固定発生源— (ISO 10397 : 1993)
プラントからのアスベスト飛散
—繊維計数測定法

Measuring method for airborne fibrous particles—
Part 4 : Indirect-transfer transmission electron microscopy method

序文 この規格は、1993年に第1版として発行されたISO 10397, Stationary source emissions—Determination of asbestos plant emissions—Method by fibre count measurementを翻訳し、技術的内容及び規格票の様式を変更することなく作成した日本工業規格である。安全上の注意事項は、附属書F(参考)を参照。

なお、この規格の中で側線又は点線の下線を施した箇所は、原国際規格にない事項である。

1. 適用範囲 この規格は、ダクト、煙突又はアスベストを用いる製造工程の煙道におけるガス流中の繊維数濃度 (fiber concentration) の評価のために、繊維の計数技術を用いて測定する方法について規定する。

この方法は、“規定された (regulated)” 繊維が発生源に生じることが分かっている工程 (a wide range of processes) における繊維数濃度を決定するために用いる。アスベスト繊維を他の繊維と区別して同定することはできない。

備考1. 繊維の識別が必要ならば、ISO 10312 (JIS K 3850-2) を参照。

2. この方法は、周囲にアスベスト繊維が逃れるのを防ぐために用いる集じん装置が正確に効果的に作動しているということを確認して用いる。

ダクト中の繊維数濃度による測定方法の適用範囲は、約0.05~10 fibers/cm³である。しかし、この範囲はダクト内流速と使用したサンプリング装置の相互に依存する採取量によって変わる。

2. 引用規格 次に掲げる規格は、この規格に引用されることによって、この規格の規定の一部を構成する。これらの引用規格のうちで、発行年を付記してあるものは、記載の年の版だけがこの規格の規定を構成するものであって、その後の改正版・追補には、適用しない。発効年を付記していない引用規格は、その最新版(追補を含む。)を適用する。

JIS K 3850-1 空気中の繊維状粒子測定方法—第1部：位相差顕微鏡法及び走査電子顕微鏡法

ISO 3966 : 1977 Measurement of fluid flow in closed conduits—Velocity area method using Pitot static tubes

ISO 8672 : 1993 Air quality—Determination of the number concentration of airborne inorganic fibres by phase contrast optical microscopy—Membrane filter method

ISO 9096 : 1992 Stationary source emissions—Determination of concentration and mass flow rate of particulate material in gas-carrying ducts—Manual gravimetric method

ISO 10312 : 1995 Ambient air—Determination of asbestos fibres—Direct transfer transmission electron microscopy method